

「探究の手法を学ぼう①～アイデアを生み出そう～」

じゃあ今から「探究しよう!」とはいっても、どんなことをしたらいいか、どんなテーマにしたらいいか、困ることも多いと思います。特にテーマ決めが一番大変なことで、また一番重要なことです。そこで今回は探究のテーマを決めるために「アイデアを生み出すトレーニング」をしてみましょう。1人で考えるよりも、大人数で考えることで良いアイデアが生まれるかもしれません。

1. 探究の形態

形態	メリット	デメリット
個人活動	<ul style="list-style-type: none"> 個々の能力を発揮できる 意思決定が速いので、スムーズな探究活動が展開できる 	<ul style="list-style-type: none"> テーマ設定につまずきやすい 一度決まった方向性を修正しにくい テーマに対する他者との議論が乏しいと、内容が深化しにくい
集団活動	<ul style="list-style-type: none"> 議論を行うことで、探究内容により深みが増す 個々の能力をベースに、積極的な交流で個々の能力以上を発揮できる 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の意思決定が円滑に進まない、テーマや探究内容が定まりにくい 議論が活性化しないと個々の能力以下の内容に陥ってしまう フリーライダー（グループ活動に協力しない人）が発生しやすい

2. 議論

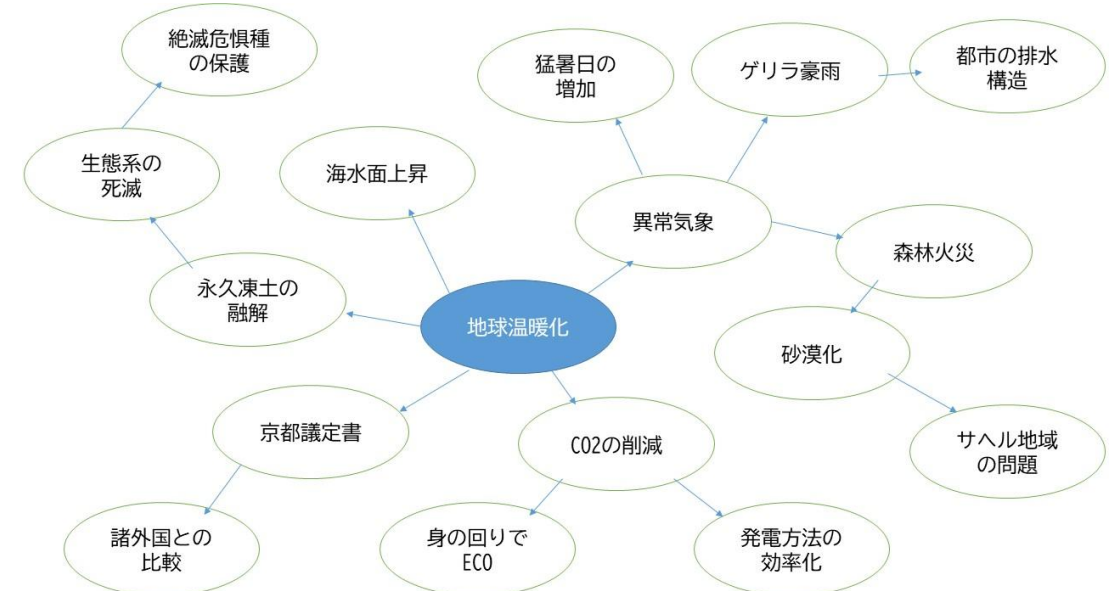
【良くない議論】	【良い議論】
<input type="checkbox"/> 単なる話し合い <input type="checkbox"/> できる人だけで進んでしまう <input type="checkbox"/> 参加しない人への不満がたまる	<input type="checkbox"/> 他者の考え方や価値観から知識や考えの幅を広げる <input type="checkbox"/> 分析・批判的思考を通して教養を鍛え上げる <input type="checkbox"/> リーダーシップやチームワークが育まれる

3. アイデアの拡張

(1) マインドマップ

マインドマップとは、頭の中のイメージやアイデアを、思考の流れがわかるように文字やイメージ図で表したものです。もともとはイギリスで教育コンサルタントを行うトニー・ブザンが提唱した思考を視覚化する方法で、今では世界中に広まりさまざまな分野で活用されています。マインドマップにより、ぼんやりとした頭の中のイメージを視覚化して整理することができ、記憶の整理や定着、アイデアの発想などをサポートしてくれます。

マインドマップ例（地球温暖化について）



(2) ブレインストーミング

ブレインストーミングとは問題解決のために新しい発想を生み出すための会議方法です。1941年に、アメリカの広告代理店社長であったアレックス・オズボーンにより考案されました。グループでテーマに沿った内容を、付箋1枚につき1つ書き込んでいきます。

ルールは次の4つです。

- ① 判断延期(他人の意見を批判しない)
- ② 自由奔放(思いつきでOK)
- ③ 質より量(多角的に多くのアイデアを)
- ④ 結合改善(アイデアの借用・連想OK)

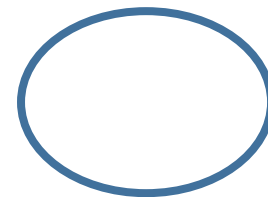
(3) KJ法 (キーワードマッピング)

KJ法とは、ブレインストーミング等で生まれた断片的な意見・アイデアを効率的かつ論理的に整理するための手法です。ブレインストーミングで書いた付箋を右の方法に従ってマッピングしてみましょう。



- ① 関連のある付箋を集め、小さなグループを作り、○で囲む
- ② 各グループを表す見出しをつける
- ③ 各グループの関係(相互・対立・原因と結果など)がわかるように、線をつないだり丸で囲んだりする
- ④ 原因・現状が不明なものや生じた疑問について、疑問文の形で記載する
- ⑤ 説明のために新たなキーワードが必要な場合は、付箋を追加する

◆ アイデア拡張実習 マインドマップ



令和()年()月()日() 組 班 名前 _____, _____, _____

◆ アイデア拡張実習 ブレインストーミング KJ法

A large empty rectangular box with a thin black border, intended for students to perform a brainstorming exercise using the KJ method. The box is currently blank.